

安全・安心な
千葉の農畜産物を
お届けします

2022 事業案内


JA全農ちば



今次 3か年計画(令和4年度～6年度)の考え方

JA全農は事業環境等に大きな変化が予測されるなか、「**持続可能な農業と食の提供のため“なくてはならない全農”であり続ける**」ことを2030年の全農グループのめざす姿として位置づけ、事業領域の拡大、既存事業の深耕を進めていきます。

千葉県本部では、「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」に向けた「千葉県本部 2030年のあるべき姿」を掲げ、実現に向けた今次3か年計画を実践します。

千葉県本部 2030年のあるべき姿

耕種：JAと全農が一体となって地域の生産基盤を維持することができている。

畜産：県内畜産生産者に対応するJAグループの最適化を実現し、生産基盤の維持に向けた生産力向上と販売力強化がはかられている。

くらし 生活：組合員へのサービスが充実し地域の活性化に結び付いている。

住宅：施主代行方式の利便性が広く理解され、組合員やJAに定着している。

取り組みの柱・令和4年度～6年度の重点実施策

1. 生産基盤の維持・産地づくり

- (1) 出向く活動(TAC活動等)強化による生産基盤の維持・拡大
- (2) 農業労働力支援の安定的な稼働体制の構築
- (3) JA域を超えた「オール千葉」体制による集荷・販売
- (4) 出荷規格の統一・簡素化と広域選果場の設置
- (5) 千葉米の結集に向けた新たな米取扱手法の検討と集荷の拡大
- (6) 「房総ポーク」の生産性向上や新規生産者への提案による頭数の維持・拡大

2. 人材の育成

- (1) JA営農指導員のレベルアップ研修会の開催
- (2) 産地課題に対応できる「品目別専門指導員」の養成
- (3) スマート農業に対応した人材の育成

3. 生産性の向上と生産コストの低減

- (1) スマート農業技術を活用した営農支援
- (2) 土壌診断にもとづく適正施肥提案
- (3) 水稻省力・低コスト技術の普及拡大
- (4) 肥料銘柄集約や担い手直送規格農薬(メガ得)の取扱拡大
- (5) 高性能化する大型機械に対応した「重整備センター」の設置

4. 販売力強化

- (1) 実需者ニーズにもとづいた生産振興・産地づくりによる販売強化、生産から販売までの一貫したしくみの構築
- (2) 千葉米の知名度向上による新規需要拡大と安定的な販売
- (3) JA全農ミートフーズ(株)との連携による肉豚・肉牛の販売力強化

5. システムシェア拡大

- (1) 肥料新共同購入運動の銘柄集約や担い手直送規格農薬の取扱拡大による価格の引き下げと、システム未利用・低利用生産者の取り込み
- (2) 段ボール資材のシステム未利用・低利用生産者の取り込み

6. SDGs・「みどりの食料システム戦略」への対応

- (1) GAP指導員の育成と「するGAP」の推進
- (2) 国内地域資源を活用したコスト低減肥料や、化学農薬使用回数の削減に向けたIPM※に適合する農薬の普及・拡大
- (3) 廃プラスチック排出削減に向けた生分解性マルチの普及・拡大

7. くらしへの貢献

- (1) 国産農畜産物を主原料とした食品の取扱拡大
- (2) シロアリ防除事業や健康機器の取扱拡大
- (3) JA石油小売り機能の強化や営農用燃料の取扱拡大
- (4) 資産管理事業の機能強化およびJAと連携した生産法人等の施設計画の提案

8. 広報活動の強化・コロナ禍での消費拡大対策

- (1) TV、ラジオ、SNS等の活用による県産農畜産物のPR
- (2) JAグループ千葉広報連絡協議会との連携による情報発信
- (3) コロナ禍での県産農畜産物の消費拡大に向けた積極的な情報発信
- (4) 消費動向の変化に対応した宅配・eコマースの取扱拡大

9. 多発する自然災害・家畜疾病への対応

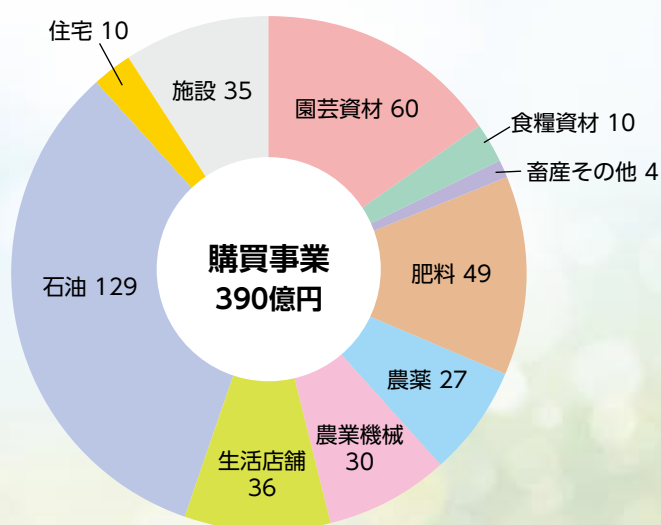
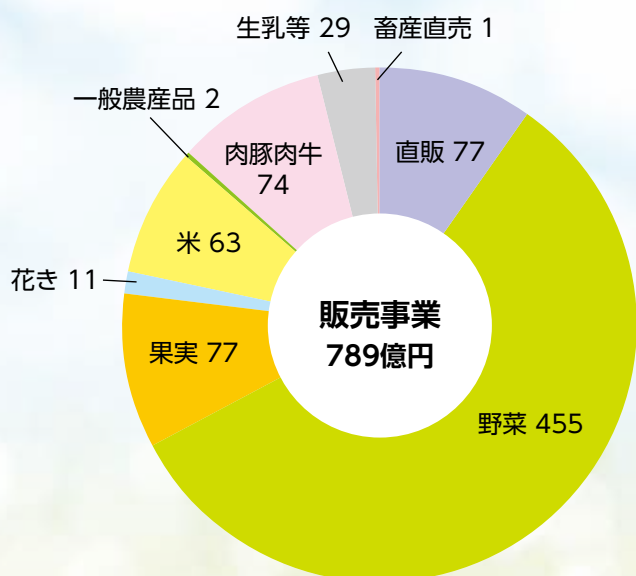
- (1) 被害の未然防止・最小化に向けたJA・生産者への情報発信
- (2) 被害発生時の迅速な復旧支援の実施

10. JA経営基盤の確立・強化に向けたJA支援の取り組み

- (1) JA経営基盤の確立・強化に向けた経済事業強化メニューの整備・拡充とJA協議の実施
- (2) 県域各連との連携によるJA向け個別支援の実施

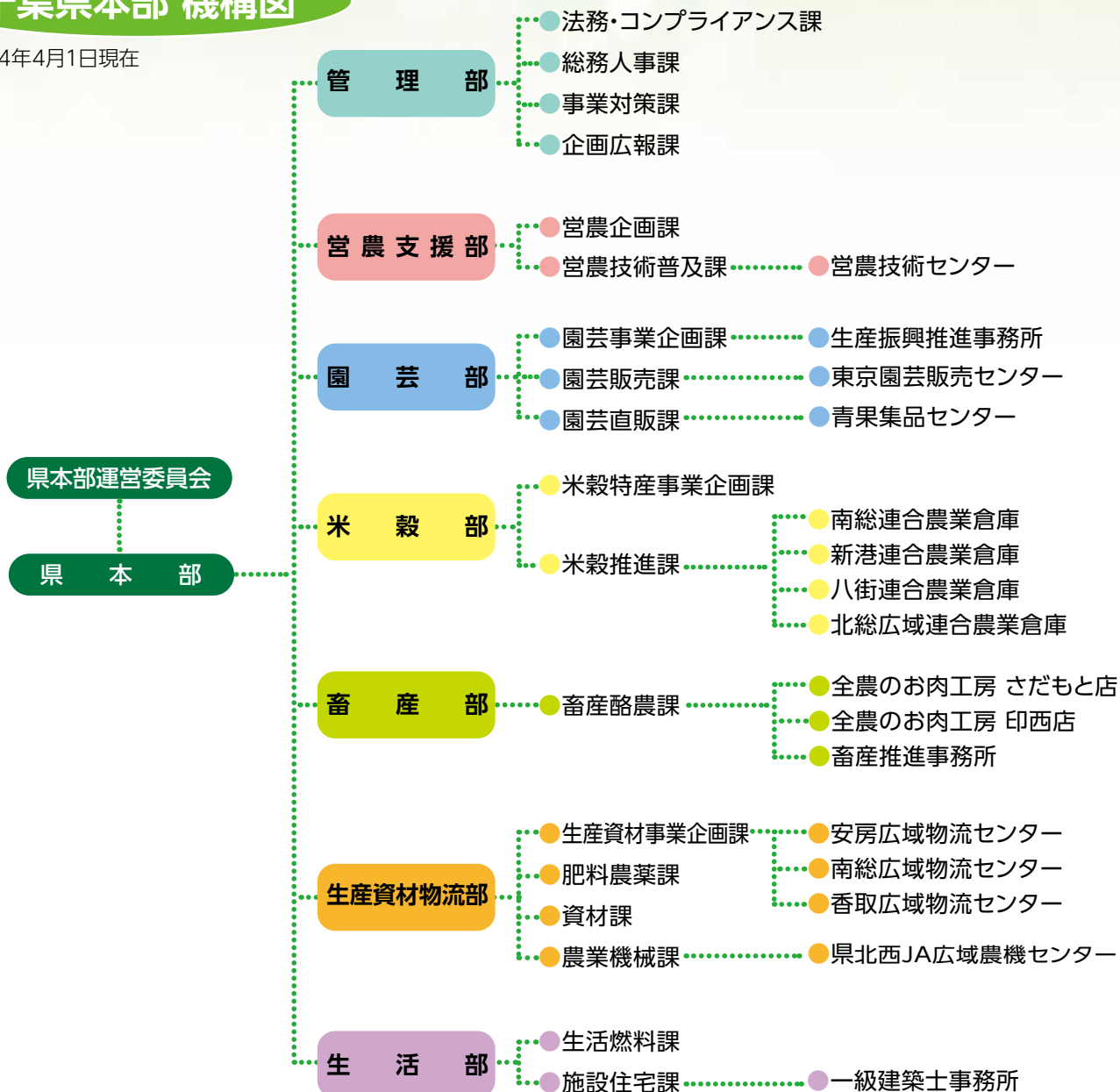
※IPM(Integrated Pest Management):総合的病害虫・雑草管理。利用可能なすべての防除技術を経済性を考慮しつつ慎重に検討し、病害虫・雑草の発生増加を抑えるための適切な手段を総合的に講じるもの。(農林水産省「総合的病害虫・雑草管理(IPM)実践指針」から抜粋)

令和3年度 全農千葉県本部 事業取扱実績



千葉県本部 機構図

令和4年4月1日現在



営農支援部

●営農企画課

スマート農業技術(Z-GIS※・ドローン等)を活用した営農支援に取り組んでいます。福祉事業所・協力企業と連携し、農作業受委託による収穫・出荷支援の体制構築に取り組んでいます。

※Z-GIS:全農版クラウド型営農管理システム



Z-GIS操作画面

●営農技術普及課

JA地域農業振興計画を軸とした担い手支援や食の安全・安心推進等により、生産者の所得向上に取り組んでいます。

また、産地づくりのための人材育成支援として、JA営農・経済担当職員のレベルアップ研修・品目別専門指導員の養成のほか、農業後継者や新規就農者に対して栽培研修等も実施しています。



ウイルスフリー苗生産(サツマイモ)

●営農技術センター

優良種苗の安定供給による生産の維持・拡大と、栽培実証施設を活用した果菜類の生産振興を行なっています。品質・収量向上とコスト低減をはかるための土壌診断の実施や各種生産資材の評価試験を行なっています。

園芸部

(2022年度計画 654億円)

●園芸事業企画課

産地との連携強化をはかるため、新たに生産振興推進事務所を設置し、オール千葉体制で高単価品目(長ねぎ・さつまいも・にんじん・トマトなど)に重点を置いた生産拡大に取り組めます。

また、千葉県農業者総合支援センターと連携した系統未利用者・低利用生産者への推進強化による系統シェアの拡大に取り組んでいます。

●園芸販売課

パートナー市場と連携したオール千葉体制による市場販売の強化に向け、だいこんやにんじん等の主要7品目を中心に、取引先を明確にした契約販売や直送別注販売を始めとした予約相対取引の拡大の取り組みのほか、コロナ禍を踏まえた販売促進に取り組んでいます。

●園芸直販課

生協や外食・中食向けサプライヤーへの提案強化による実需直販の拡大と、東南アジア諸国を中心とした千葉県農産物の輸出拡大に取り組んでいます。また、SNS等を活用した県産農畜産物の消費拡大に取り組んでいます。



イオン近畿県産青果物フェアの様子



青果集品センター

米穀部

(2022年度計画 90億円)



落花生のぼっち

●米穀特産事業企画課

需要に応じた米生産の取り組みとして「飼料用米」や「加工用米」等の作付け推進のほか、米麦種子、紙袋、フレコン等食糧資材の安定供給に取り組んでいます。

また、日本一の生産量を誇る千葉県産落花生のさらなる生産振興をはかるため、むき実種子の供給や落花生の作付け拡大提案、「Qなっつ」等の販売促進にも取り組んでいます。

●米穀推進課

千葉県産米の安定取引に向け、消費宣伝活動による知名度向上と安定集荷・販売に取り組んでいます。

また、令和元年度に竣工した千葉米ターミナル北総を中心に、県内連合倉庫を活用した集荷・検査を実施し、実需者への直接販売や買取販売の拠点として活用することにより、千葉米の安定販売に取り組んでいます。



米消費拡大動画(イメージ)

畜産部

(2022年度計画 112億円)



全農のお肉工房 印西店



コンサルタントの巡回指導

●畜産酪農課

肉豚事業では、銘柄豚「房総ポーク」の生産者の生産性向上や新規生産者への提案による頭数確保と知名度向上による販売力強化に取り組み、生産者の経営維持および生産の拡大に取り組んでいます。

肉牛事業では、生産者の所得安定化に向け、予約相対取引の強化およびJA全農ミートフーズ㈱と連携した輸出事業に取り組めます。

酪農事業では、酪農生産基盤維持・拡大のため、技術コンサルタントの巡回指導により、生産者の手取り向上に取り組んでいます。

直販事業では、直売店舗「全農のお肉工房」やインターネット販売サイトの「JAタウン」での県産の系統ブランド肉やその加工品の販売を通じ、県産食肉の知名度向上と消費拡大に取り組んでいます。

また、県内の畜産生産基盤維持のため、JA・関係団体との連携により家畜堆肥の活用と地域循環型の仕組みづくりを検討・協議しています。

●生産資材事業企画課

生産資材価格高騰やコスト低減、被覆肥料のプラスチック被膜殻の海洋流出防止に向けた適切な圃場管理の指導、SDGsや「みどりの食料システム戦略」など、農業における環境負荷低減に取り組めます。

また、JAの物流コスト削減に向けて、広域物流センターを運営し、組合員宅への購買品(生産・生活資材)の戸配送に取り組んでいます。



プラスチック被膜殻の水田圃場からの流出防止捕集ネットの検証



●肥料農薬課

安全・安心で美味しい農産物づくりのための高品質・低価格肥料の供給と「担い手直送規格(愛称:メガ得)」農薬の取扱強化や水稲一発除草剤の品目集約などにより、生産コストの低減に努めています。

また、農産物に影響を与える異常気象が頻繁に発生しているなか、高品質な農産物を安定的に生産するための基本となる「土づくり肥料」の利用拡大にも取り組んでいます。

●資材課

農産物の出荷に必要な段ボール等の出荷資材をはじめ、生産に必要なパイプハウスなど農業資材や種苗の安定供給に取り組んでいます。

また、資材コスト低減や作業効率の改善に向け、低コスト原紙段ボールやノンステープル段ボールの提案、環境に配慮した生分解性マルチの利用拡大に取り組んでいます。



パイプハウス自力施工研修



「第47回JAグループ千葉農機大展示会」

●農業機械課

低価格モデル農機の共同購入機(中型トラクター)や農機シェアリース(大型コンバイン)の普及とレンタル農機の取扱拡大、中古農機の流通拡大による生産コストの低減に取り組んでいます。

また、毎年10月に「JAグループ千葉農業機械大展示会」を開催し、生産者に対して新商品や新技術(スマート農業機械など)の情報発信に取り組んでいます。

●生活燃料課

生活事業では、国産農畜産物および国産農畜産物を主原料とした食品（エコープマーク品・全農ブランド商品・ニッポンエール商品）の取扱拡大に取り組んでいます。また、周知活動の一環として、エコープマーク品を中心に、SNSを活用したレシピ提案を行い、商品PRに取り組んでいます。

また、シロアリ防除事業や健康機器の取り扱いを通じ、地域の豊かな暮らしを応援しています。

燃料事業では、営農用燃料油（灯油・重油・軽油）の新規利用拡大や地域ライフラインの維持を目的にJA-SSの運営力強化支援に取り組んでいます。



●施設住宅課

JAと連携した組合員への土地有効活用の相談・提案活動を強化し、施主代行方式による事業対応に取り組んでいます。

また、一級建築士事務所による、計画的な建替、補改修等の相談・提案活動に取り組んでいます。



全農施行物件



JAちば東葛野田地区経済センター

管理部

各事業部門との横断的な取り組みによる新たな事業のサポートを行うとともに、コンプライアンスの徹底、県本部内の経営状況の把握、事業計画の立案、計画的な人材育成に取り組んでいます。

また、各種メディア・HP・SNSを活用した積極的な情報発信に取り組んでいるほか、県内JAの経済事業収支改善・組合員サービス向上に向けた取り組みをサポートします。



「がんばろう!ちばJAマルシェ」の様子

SDGsへの取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsとは「持続可能でよりよい世界を目指すための国際社会共通の目標」のことで、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載される形で2015年9月の国連サミットにて採択されました。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すために、17の目標・169のターゲット・244の指標で構成されており、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

「JA全農ちば」は協同組合精神と使命・経営理念に基づき、様々な事業の実践を通じてSDGsに積極的に取り組みます。



農福連携によるたまねぎ収穫支援



天敵農薬「バンカーシート」



生分解性マルチ(葉にんにく)

社会貢献

●スポーツ支援活動

- 全農杯全日本卓球選手権大会千葉県予選への県産農畜産物提供
- 全国高等学校野球選手権大会、選抜大会出場校への県産農畜産物の提供
- ジェフユナイテッド市原・千葉への千葉県産米・加工品の提供



出前授業の様子

●各種支援活動

- 小学校への千葉県農業の特徴等を伝える出前授業の実施
- 新型コロナウイルスの影響で困窮している県内大学で学ぶ学生を対象に千葉県協同組合提携推進協議会(9団体)による食料等支援の実施
- NHK歳末助け合い募金
- エコキャップ運動への参画



大学生への食料等支援

関連事業

●株式会社 ジェイエイライフ・千葉

「すべては葬家のために」を信条とし、故人とご遺族の想いに寄り添い、事前の相談からサポート、アフターフォローにいたるまで、心をつくした信頼のサービスを提供します。



●株式会社 JAエネルギー千葉

「クミアイプロパン」のブランドで千葉県内JAの生産者を中心とした一般家庭向けと業務用のLPガス販売事業を行っています。LTO S(LPガストータルオペレーションシステム)にて、お客様の使用状況、配送管理等を行っています。

また、JA組合員が日々利用している電気の販売を行っています。



千葉県農業の概要

令和2年 農業産出額 千葉県3,853億円(全国4位)
(全国8兆9,557億円)



●千葉県農業産出額の全国順位(令和2年)

(単位：億円)

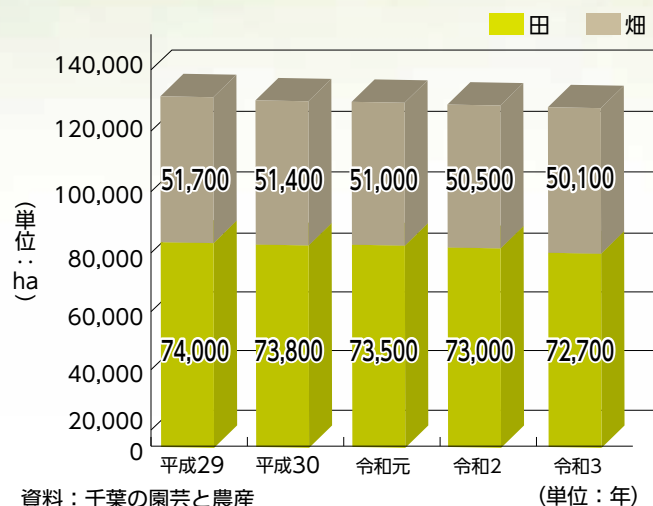
順位	総産出額	耕種計	豆 類	イモ類	野 菜	花 き	生 乳	豚	鶏 卵
1	北海道 12,667	北海道 5,329	北海道 332	北海道 649	北海道 2,145	愛 知 497	北海道 4,026	鹿児島 856	茨 城 452
2	鹿児島 4,772	茨 城 3,055	千 葉 81	茨 城 362	茨 城 1,645	千 葉 161	栃 木 394	宮 崎 521	千 葉 295
3	茨 城 4,417	千 葉 2,657	宮 城 33	鹿児島 305	千 葉 1,383	福 岡 159	熊 本 290	北海道 512	鹿児島 273
4	千 葉 3,853	長 野 2,402	兵 庫 26	千 葉 245	熊 本 1,221	静 岡 153	岩 手 238	群 馬 465	広 島 229
5	熊 本 3,407	青 森 2,378	福 岡 20	長 崎 124	愛 知 1,011	埼 玉 151	千 葉 223	千 葉 447	岡 山 228

資料：令和2年農業産出額、農林水産省

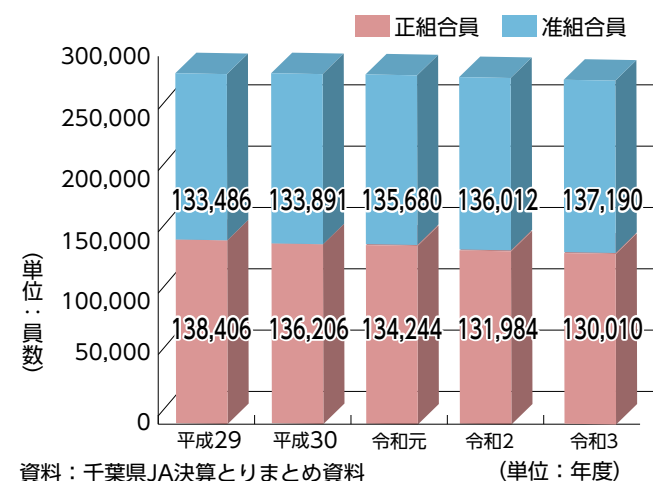
※耕種計には、米、麦類、雑穀・豆類、イモ類、野菜、花き、工芸農作物、種苗・苗木類、その他を含む

※表項目以外の産出額第10位以内は、第9位の米(641億円)

●耕地面積の推移《千葉県》



●JA組合員の推移《千葉県》



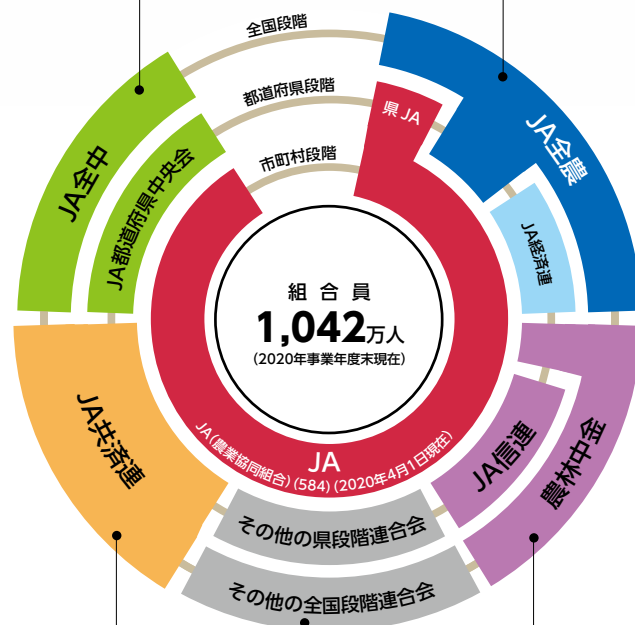
●JAグループの組織図

代表・総合調整・経営相談事業

JAグループの意見を代表・総合調整し、組織、事業及び経営に関する相談に応じる。

経済事業

組合員の生産した農畜産物を消費者に届ける「農畜産物販売事業」と組合員に必要な資材を供給する「購買事業」を行う。



共済事業

生命共済、損害共済、年金共済を扱い、組合員の生活を保障する役割を担う。

信用事業

組合員の貯金を原資に組合員に対する各種金融サービスを行う。

その他の事業

厚生事業、新聞情報事業、出版・文化事業、旅行事業をおこなう。(日本農業新聞、家の光協会・農協観光・JA全厚生・JA厚生連)

事務所・事業所一覧

●農業会館内 〒260-0031 千葉市中央区新千葉3-2-6

管理部

法務・コンプライアンス課	☎043-245-7401
総務人事課	☎043-245-7370
事業対策課	☎043-245-7358
企画広報課	☎043-245-7360

営農支援部

営農企画課	☎043-245-7390
営農技術普及課	☎043-245-7373

園芸部

園芸事業企画課	☎043-245-7378
園芸販売課	☎043-245-7389
園芸直販課	☎043-245-7385

米穀部

米穀特産事業企画課	☎043-245-7374
米穀推進課	☎043-245-7375

畜産部

畜産酪農課	☎043-245-7381
-------	---------------

生産資材物流部

生産資材事業企画課	☎043-245-7406
肥料農薬課	☎043-245-7387
資材課	☎043-245-7379
農業機械課	☎043-245-7393

生活部

施設住宅課	☎043-245-7396
-------	---------------

●総合センター 〒261-0002 千葉市美浜区新港70-3

生活部

生活燃料課	☎043-247-1411
-------	---------------

事務所・事業所

営農技術センター
〒286-0045 成田市並木町大久保台221-81
☎0476-22-5131

生産振興推進事務所
〒260-0031 千葉市中央区新千葉3-2-6
☎043-245-7378

東京園芸販売センター
〒143-0001 東京都大田区東海3-2-1
☎03-3790-6408

青果集品センター
〒270-1444 柏市若白毛1124-6
☎04-7190-1377

全農のお肉工房さだもと店
〒299-1133 君津市貞元133-1
・問い合わせ先:畜産酪農課 ☎043-245-7381

全農のお肉工房印西店
〒270-1334 印西市西の原4-3
・問い合わせ先:畜産酪農課 ☎043-245-7381

畜産推進事務所
〒289-2505 旭市鎌数6354-3
☎0479-64-1262

県北西JA広域農機センター
〒278-0012 野田市瀬戸974-1
☎04-7138-3556

安房広域物流センター
〒299-2503 南房総市石堂45-1
☎0470-40-4191

南総広域物流センター
〒297-0102 長生郡長南町本台628
☎0475-40-5321

香取広域物流センター
〒287-0026 香取市大根703-2
☎0478-79-5580

一級建築士事務所
〒260-0031 千葉市中央区新千葉3-2-6
☎043-245-7396

子会社

●(株)ジェイエライフ・千葉

〒261-0002 千葉市美浜区新港70-3
☎043-302-0983

本県を代表する農畜産物

千葉県主要農産物産出額の全国順位 令和2年産

1位



だいこん

産出額 107億円
全国に占める割合 14%
②北海道 ③青森



日本なし

産出額 87億円
全国に占める割合 12%
②長野 ③福島



らっかせい(からつき)

産出額 80億円
全国に占める割合 85%
②茨城 ③神奈川



さやいんげん(未成熟)

産出額 47億円
全国に占める割合 17%
②北海道 ③福島



かぶ

産出額 29億円
全国に占める割合 25%
②埼玉 ③青森



マッシュルーム

産出額 19億円
全国に占める割合 31%
②山形 ③茨城



しゅんぎく

産出額 15億円
全国に占める割合 11%
②大阪 ③群馬



みつば

産出額 9億円
全国に占める割合 15%
②茨城 ③愛知

2位



さつまいも

産出額 178億円
全国に占める割合 18%
①茨城 ③鹿児島



ねぎ

産出額 173億円
全国に占める割合 11%
①埼玉 ③茨城



にんじん

産出額 114億円
全国に占める割合 20%
①北海道 ③青森



すいか

産出額 78億円
全国に占める割合 13%
①熊本 ③山形



さといも

産出額 42億円
全国に占める割合 12%
①埼玉 ③宮崎



とうもろこし

産出額 32億円
全国に占める割合 8%
①北海道 ③茨城



しょうが

産出額 29億円
全国に占める割合 12%
①高知 ③熊本



そらめ(未成熟)

産出額 8億円
全国に占める割合 16%
①鹿児島 ③茨城



びわ

産出額 8億円
全国に占める割合 26%
①長崎 ③鹿児島

3位



キャベツ

産出額 83億円
全国に占める割合 8%
①群馬 ②愛知



ほうれんそう

産出額 71億円
全国に占める割合 9%
①群馬 ②埼玉



やまのいも

産出額 26億円
全国に占める割合 6%
①北海道 ②青森



えだ豆(未成熟)

産出額 40億円
全国に占める割合 10%
①山形 ②群馬

資料：令和2年千葉県農業産出額

● 経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

— 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。 —

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA全農ちば

全国農業協同組合連合会千葉県本部

[HP]



[公式 Instagram]



[公式 Youtube]



[米消費拡大動画]

